

令和7年度「とみぐすく写真アーカイブ」古写真トークイベント実施記録

—地域資料の情報収集における有効な手法の検討—

久貝 祐子 ・ 田辺 可奈

はじめに

豊見城市教育委員会文化課(以下文化課)では、デジタル博物館事業の一環として、地域の歩んだ歴史や風景、思い出を地域で共有することを目的に、市内の自治会ごとに地域写真集『とみぐすく写真アーカイブ』を作成している。現在までに 34 自治会、34 冊の写真集を発刊し、今後は市内の全 48 自治会の写真集作成を目指している。今年度は、その活動の一環として、北分譲、県営上田団地、エコシティとはしなの 3 自治会の写真集を発刊する予定である。

写真集発刊にあたり、文化課や他部署、関係諸機関の所蔵する写真資料を収集・調査するとともに、自治会の協力のもと、自治会や住民の方の所蔵する地域の写真やそれに関わる資料の収集・調査を行った。またこれらをデジタル化し、地域に眠る資料の掘り起こしと保存に努めている。収集した資料については、自治会の方からの聞き取りや、『広報とみぐすく』などの広報誌、WEB、新聞記事や各種地図等を利用して、調査を進めている。

文化課では、より充実した写真集を作成するため、当該自治会に協力していただき、2 つの方法で資料についての情報収集を行っている。1 つ目はパンフレットを利用する方法である。写真集に使用したい写真や詳細が不明の写真を「パンフレット」にまとめ、当該自治会の自治会員に配布、情報を書き込んでいただいたものを回収する。2 つ目は「古写真トークイベント(以降 トークイベント)」である。パンフレットを利用する方法かトークイベントか、自治会と相談の上実施している。トークイベントは、集会所などで古い写真をスライドで自治会員の皆様に見ていただき、写真に関わる情報や思い出などを語り合うことで、記憶の共有と、写真集作成のための情報収集を図るものである。コロナ禍が明けたばかりということもあり、昨年度はパンフレットを選ぶ自治会もあったが、今年度は全 3 自治会でトークイベントを実施した。トークイベントは、過去の事業で実施経験はあるものの、本事業においては令和 6 年度から始まった新たな試みで、今年度が 2 年目となる。本稿では、今年度の実施内容を振り返り、地域資料の情報収集の一方法として本イベントを紹介し、今後の課題について検討する。

1. 「古写真トークイベント」の概要

1-1. 実施目的

トークイベントは、自治会の方と古い写真を見ながら、写真に関わる情報や思い出などを語り合う場として開催する。会場であがった思い出話や、写真に関する情報は、より充実した写真集を目指すため、写真集作成に活用する。写真集作成の他に、収集できた情報は地域資料を補完する貴重な情報として記録される。

1-2. スケジュール

今年度の写真集作成スケジュールは、文化課やその他諸機関の資料調査を実施しつつ、5~6 月に自治会に挨拶を行い、写真集作成の同意を得た後、自治会や個人所蔵の資料収集・調査を開始。写真集の編集作業を

しつつ、トークイベント前に各自治会の協力の下、事前調査を実施、11月にトークイベントを実施した。各3自治会の実施日時は以下の通りである(実施順に記載)。

また、トークイベントのチラシを作成、イベント1か月前の10月初めに自治会にお渡し、自治会内への配布をお願いした。チラシについては、全戸配布を希望する自治会、自治会内への案内として貼付用だけを希望する自治会など、自治会により違いが見られた。

自治会名	事前ヒアリング	トークイベント
エコシティとはしな	9月18日(木)14:00～	11月8日(土)18:00～
県営上田団地	10月14日(火)10:00～	11月18日(火)14:00～
北分譲	11月14日(金)17:00～	11月20日(木)19:00～

1-3. 実施方法

トークイベント実施にあたっては、業務委託の株式会社 Nansei の協力を得た。

役割としては、株式会社 Nansei が全体の統括と、写真の選択やスライドの作成、イベントの運営を中心となって実施、文化課は写真の選択や、自治会との連絡・調整、イベント運営補助を担当した。

トークイベント実施の1か月前を目安に、予備調査として自治会へのヒアリングを実施する。この時に、トークイベントに出す予定の写真や詳細不明の写真などを自治会役員や昔の自治会をよく知っている人に見てもらい、基礎的な情報収集を行う。

予備調査をもとに、文化課と協同して、株式会社 Nansei がトークイベントのスライドをブラッシュアップする。トークイベント当日は、株式会社 Nansei が音響や進行を担当し、文化課は運営の補助を行う。次に、各自治会のトークイベントを実施順に振り返る。

2. 各自治会の「古写真トークイベント」振り返り

2-1. エコシティとはしな

エコシティとはしなは、沖縄県住宅供給公社により環境共生住宅をテーマに作られた新興住宅地である。エコシティとはしな自治会は平成10(1998)年4月に発足し、継続的な清掃活動や、秋祭りなどのイベントが実施され、シニアクラブや子ども会青年会(友遊倶楽部)などの自治会内の団体も精力的に活動している。

トークイベントのための予備調査は、9月18日木曜日、自治会で会議が行われる前の時間を利用して実施した。10月、11月は自治会の秋祭りや大清掃があるため、予備調査の実施目安である本番の約1か月前より早めのタイミングで自治会と調整し、予備調査を行った。自治会長はじめ役員の方々、シニアクラブ会員の方10名ほどにご参加いただいた。

トークイベント当日は、自治会役員やシニアクラブ、歴代自治会長の方などにもご出席いただけた。歴代自治会長には、自治会と相談の上、チラシの他に案内状をお渡ししていた。



写真1 エコシティとはしな トークイベント

予備調査、トークイベント当日を通して、エコシティとはしな に居住するきっかけや、せせらぎ公園の改修工事、野球チームから友遊倶楽部結成への流れなど、貴重なお話を聞くことができた。全体を通して、住民同士のつながりを大切にしつつ、地域をより良くしていこうという意識の強さが感じられた。

いくつか反省する点としては、1 つには、詳細不明な写真についての情報を集めることに重点を置いてしまい、自治会の方に写真集の構成に不安を抱かせてしまった点である。これについては、業務委託先とも連携を取り、詳細不明な写真を入れつつ、写真集全体の流れをスライドで示すべきだったと考える。

2 つには、写真の年代が問題となった時に、依拠する資料をすぐに提示できなかったことである。後述するが簡単な年表のような基礎資料を準備する必要があったと思う。

なお、トークイベント後に、貴重な写真の提供やエピソードを聞くことができ、同様なことは他自治会でもみられた。トークイベントの実施により 自治会と文化課との信頼関係が醸成されたこと、具体的な写真の提示ができたことで住民の方に写真集への理解を深めていただけたことが大きいように思われる。

2-2. 県営上田団地

県営上田団地は、マンションのような外観を持つ現代的な集合住宅である。昭和 49(1974)年に完成し、昭和 50(1975)年から入居が開始された。現在の住宅は建て替えられたもので、平成 22(2010)年に工事が完了している。県営上田団地がある県道 256 号線沿いは、市役所や学校、商業施設が多くあり、また、付近を通るバスの種類も多く、豊見城の中心地ともいえる場所に立地している。

トークイベントには、予備調査と当日を通して、ミニデイに参加している住民の方に多く参加いただいた。自治会長以外の参加者は全員女性であった。建替え前の団地の思い出や周辺地域の移り変わり、県営上田団地を選んだ理由など貴重なお話を聞くことができた。

これまで文化課では 34 の自治会の写真集を作成してきたが、戸建てではない団地ははじめてであり、これまでの自治会にない難しさがあった。

トークイベントにて、この居住地を選んだ理由は交通アクセスの良さや家賃など実利的な面が大きいことが分かった。また、住民の流動性も高いため、一連の歴史を語る住民が少ない傾向にある。このことから、昔からある字の住民や、選んで居を構えた新興住宅地の住民と比べ、地域の歴史への関心は限定的であるように感じられた。一方で、行動の実感が伴う現在につながる事象には高い関心が示された。



写真2 県営上田団地トークイベント

2-3. 北分譲

北分譲は豊見城団地の北側にあることから名前がついた戸建て分譲地である。北分譲自治会は昭和 47(1972)年に結成された、歴史ある自治会である。

トークイベントには予備調査と当日を通して、自治会長をはじめ役員、シニアクラブの方を中心に、婦人会の方々にもご出席いただいた。住宅を購入するときのエピソードや、ハブが出



写真3 北分譲トークイベント

た時のお話、周辺地域の移り変わりについてなど、興味深いお話が活発に交わされた。

県営上田団地と違い、分譲地ができた頃や、周辺地域そのものに対する興味が強いように感じた。ここが新興の分譲地であり、自分で選んで住んだという意識からくる興味かもしれない。

なお、調整上の都合により、エコシティとはしな、県営上田団地と違い、予備調査に十分な時間をとることができなかった。2 自治会ではそれぞれ 30 点ほどの写真を見ていただいたが、北分譲では 6 枚ほどの写真にとどまった。詳しくは後述するが、予備調査とトークイベントの内容が重複してしまう問題について、結果的に北分譲ではこの問題が回避できたといえる。

おわりに—成果と今後の課題—

「古写真トークイベント」実施の成果としては、地域の歴史についての貴重な証言や情報が得られたことがあげられる。さらに、今回のトークイベントを通して、自治会の方々に対し写真集刊行の意義を広く周知することができたことで、自治会との信頼関係が構築され、実施後に貴重な写真資料の提供や情報収集が進展したことがあげられる。また、会場において住民同士が「懐かしい思い出」を共有し地域のアイデンティティを再確認できるような場を提供できたことは、資料や情報の収集に留まらない成果であったと考える。

一方で、いくつか反省点や課題もあげられる。

1 つ目は、実施時期の再検討である。イベント後に資料提供が活性化するという現況に鑑み、実施時期を前倒した方が事業の進捗が図られるのではないかと考える。今年度は 11 月に実施したが、8 月や 9 月などに繰り上げることで、イベントを「周知と収集の起点」として位置づけ、編集作業に充てる期間を十分に確保するとともに、より豊富な資料から、地域の歴史や特徴を示す資料を選択し得るようになることで内容の充実も図られるのではないだろうか。また、自治会の行事も秋に集中することが多く、自治会とのスケジュール調整もより円滑になるように思われる。さらに、もし夏休み期間中に充てることができれば、小中学生などの若年層やその保護者も出席しやすくなり、地域の思い出や歴史を次世代に継承する場としての機能が向上できる。

2 つ目は、補助資料の必要性である。運営側と参加者の双方が地域の歩みを共有できるよう、簡潔な歴史年表等の必要性を感じた。補助資料の導入は、写真の年代特定の精度を高めるだけでなく、参加者の記憶を呼び起こすきっかけとして機能することが期待できるのではないだろうか。

3 つ目は、予備調査と本イベントの役割分担が曖昧になってしまった点である。予備調査については、基礎的な調査のため数人の出席者を想定しているが、今年度は自治会の協力があり、3 地域とも多くの自治会員に集まっていた。そのおかげで貴重なお話を予備調査の段階から聞くことができた半面、本番の参加者の多くが重複してしまい、特にエコシティとはしなと県営上田団地の両自治会は提示資料の多くも予備調査と重複していたことから、両者の差異が曖昧となってしまった。今後は予備調査への出席人数の調整を十分に行うことが第一にあげられるが、その上で予備調査に多くの自治会員の方に参加いただいた場合には、本番のスライドに予備調査とは異なる写真を準備する、または地域の歴史を時系列に沿って再構成したスライドとするなどの対策をする必要があると感じた。

「古写真トークイベント」はいくつか課題も散見されるが、それ以上に地域コミュニティの深化と資料発掘において多大な恩恵をもたらしている。写真集作成のための調査という面と住民と行政の交流イベントとしての面を両立させることの難しさも感じたが、今後も様々な団体と協力し、地域の記憶を次世代へ継承する本事業を継続的に発展させることを目指していきたい。